

令和6年度 第1回長野市青少年健全育成審議会議事録（要旨）

- 1 日 時 令和6年7月4日（木）午前10時から正午まで
- 2 場 所 長野市城山公民館第二地区分館
- 3 出席者 委員13名、事務局8名
- 4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 委員の委嘱
- (3) 教育次長あいさつ
- (4) 自己紹介
- (5) 会長あいさつ
- (6) 議 事（議事進行 会長）
 - ① 家庭・地域学びの課（青少年担当）の事業について
 - ② 少年育成センターの事業について
- (7) 視察
ながのこども館「ながノビ！」
- (8) その他
- (9) 閉 会

5 会議録

(1) 教育次長あいさつ：

委員の皆様には、日頃より青少年健全育成に多方面からご尽力を賜っていることをこの場を借りて感謝申し上げます。本市では、明日を拓く深く豊かな人間性の実現を教育の基本理念に掲げ、その基本施策の具体化を図るために昨年度の4月に第3次長野市教育振興基本計画を策定した。この計画において、基本的方向の一つに「共に学び合い、育ちあう地域づくりの推進」を掲げている。少子化や核家族化の進行・インターネットなどの通信機器の急速な普及などにより、青少年を取り巻く環境が大きく変わってきている。青少年の育成には、家庭の教育力の向上や地域の支援が重要であると考えている。今後も計画に基づいて、家庭と地域、そして学校が連携しながら、引き続き青少年の健全な育成に努めてまいる。今月は青少年の非行被害防止全国強調であり、全国一斉に行政関係機関・地域住民等で啓発活動を行っている。本市においても長野駅前での街頭啓発活動を実施して、FMぜんこうじや広報ながのへの記事の掲載といった広報活動も行っている。引き続き、青少年の非行・被害防止への協力を呼び掛けていきたいと考えている。

最後に、学校だけ・家庭だけでは本当にできない、そういう時代になってきたなど感じている。むしろ学校じゃないからできること、教育委員会ではないから見えることがある。

是非本審議会を通して、多方面から委員の皆様のご意見をいただき青少年の健全育成を進めてまいりたいと考えている。

(2) 会長挨拶

青少年の問題に関して、私の小さい時は周りに不良がいっぱいいて、社会でどう抑えるかという感じであったが、最近はあまり目立ってそういうことはなくなってきたのかと印象を受けている。しかしながら、問題がなくなったわけではなく、いろんなところに潜在して、SNSの世界にいたり、心の問題ということで不登校の問題などにあらわれたりしている。そういうことも含めて私たちにできることは、問題行動を見つけて対処するというよりも、センサーを広げてアンテナを立てて問題を察知して聞くということ、もう一つは子どもたちが一つの場所ではなくいろいろな自由な場所を見つけて、刺激を受けて、健康に育ててもらえるように、家庭・地域・学校と連携していくということが大事だと思っている。

(3) 議 事

ア 報 告

(ア) 家庭・地域学びの課（青少年担当）の事業について

（説明：事務局）

（資料：令和5年度家庭・地域学びの課（青少年担当）の主な事業実施状況及び令和6年度事業計画）

- ・リーダーの育成、指導者団体（長野シニアリーダーズクラブ、成人指導者の会、動く子ども広場「すこやか号」）について
- ・長野市青少年健全育成審議会、青少年健全育成行事、青少年健全育成事業（子どもわくわく体験事業補助金）、家庭教育力向上（家庭教育講座等）について

(イ) 少年育成センターの事業について

（説明：少年育成センター）

（資料：令和5年度少年育成センター事業実施状況及び令和6年度事業計画）

- ・巡回指導活動、長野市青少年保護育成条例に関すること、少年相談活動、広報・啓発活動、研修活動、出前講座について

【質疑・意見】

協議事項①について

（委員）

育成会活動の中で子ども会のリーダーがとても大切な役割を果たしてきた事実は育成会の歴史の中にあり、うちの町でも長野市のリーダー研修会に参加させてもらった中学生が町の

育成会の会合で、6年生にこうやって話し合いって進めるんだよということを指導しながら育成会活動を進めてもらった経験がある。大人の役員が言っても、なかなか5・6年生はそこまで意識がなくて、やっぱりちょっと上の先輩に言われるっていうのはものすごく影響力があると思う。そういう意味でリーダーの養成はとても大切だと思うが、コロナで様々な活動が制限されて、リーダー活動も皆が出て来られなくなり下火になった。そんな中、今までは小学生中学生とリーダー活動をした子が高校生になって指導的立場（シニアリーダー）になってくれることが多かったが、今年は今までのその下積みがないような、高校生になって初めてリーダーというものに触れる高校生たちがたくさん募集で集まってくれたということですごく感激した。そういう子どもたちが中心になってリーダー活動が大きく広がってくればいい。

青少年健全育成情報交換会の参加人数が少ないという話について、各地区コロナで活動がほとんど出来ていなかったのも、集まってくださいと言っても実績がない中ではなかなか集まってくれないのではと思う。そんな時に子ども会とは？とか子ども会Q&Aとかそういうリーフレットを作成し住民自治協議会に送って、青少年健全育成に使ってもらうよう予算をかけてもいいのではないか。実際にうちの町も今年ようやく育成会の総会など皆が集まっただけの会合が久しぶりにできるようになったが、新しく選ばれた人たちがどうしたらいいのだろうと戸惑っているところがある。育成会はどうな仕事をしたらいいのか、子ども会って何という無知な状態から再スタートになるので、過去に作ったリーフレットなどをぜひ活用していただいて送ってもいいのではないかと考える。

（委員）

平成の大合併で長野市自体がものすごく大きくなっている中で、この地域のリーダーやシニアリーダーの数について目標はどのくらいなのか。長野市全体からすると、ほんの一部で少ない。地域の偏りや活動の拠点などの問題があるのではないかなと思う。何人ぐらいを本来は目標にしていますとか、コロナで少なくなっている現状なので数を増やせとか、すごく難しいことだなと思うが計画的にどのぐらいの数で、リーダーを増やしていきたいのか。

前回も質問したが、子ども会キャンプも参加者が少ない。地域のボーイスカウトやガールスカウトの協力を得てやるともっと人数も広がるのではないかなと思っている。

あと、この会に来て今まで一度も市長の顔を見たことない会だと思っている。時代がどんどん変わっているので、毎年新しい計画をしていかなければいけないと思うが去年より今年は、反省を生かしてどのようにしていきますかということが大事だと思う。

（事務局）

具体的な数字、目標は今のところ定めてはいないが、少しずつでもリーダーを育てる・シニアリーダーを育てるところは非常に重要なことだと考えている。具体的にどうしたらいいかというところについては、皆さんのご意見も頂戴しながら今後検討させていただきたいと思

っている。また地域の偏りについて、各地域いろいろ状況は違うとは思っているので、聞き取りをしながら、様々な事業のアピールもしていきながら、是非進めて行きたいと思っている。またキャンプ 20 名というところですが、やはりあまり多すぎても釜戸の数が足りないとかそういったこともあろうかと思う。それでも 30 人ぐらいは来てほしいという思いはある。募集も終わってしまったので、またどういった方法で周知して参加人数を増やしていくかも検討したいと思っている。PDCAサイクルではないが、こういう風にやって、これがダメだったけどこうなったらいいのではないかなど私どもも考えながらやっていきたいと思う。

(委 員)

今、地域と出るたびに住民自治協議会とのつながりと出てくるが、皆さんご存知のように今回の青少年健全育成とか見守りとかみんな理念は承知している。なんとかしなければいけないと皆思っているが、そもそも住民自治協議会そのものがどこまでやったら皆さんが納得できる会なのかととても難しいところがある。そこに定年の延長でそれぞれの地域デビューする年齢が60から65・70になるということでもいろいろ変わってきている。なので、一律にできないのが住民自治協議会の活動なので、一生懸命実態把握に努めていただき、それぞれの地域の実態・実情に応じて方向性を示しながらやっていただければ、地域も協力したいと思っているのでよろしくお願いいたしますと思う。

協議事項②について

(委 員)

事象として、件数のその奥にある原因が何か、そのようなことが起こる原因というのをお掴みになっていることがもしあれば、教えていただきたい。

(事務局)

内面的なことについてはいろいろと言われている。昨日、おとといと学校の先生方に集まっていたいて学校少年委員の研修会を今年も開催した。今年は警察から、昨年・一昨年は信州大学教育学部の先生を講師として、コロナ禍で子供たちの内面がどうなっているのかということについて研修をした。その中で子供たちの悩みを受け止める方法を色々教えていただいたが、そういう最前線の内容を学校の先生方に研修していただかないといけないなと思いながら研修を開催した。これまでのことがこれまでのようには通じないという状況があると思っている。少年育成センターでは、SNS のトラブル・犯罪被害の相談がとて多いので、これについて出前講座を令和 5 年度は 30 件させてもらった。特に、断るに断れないという子どもの心情、裸の写真を送ってくれなどと言われても断るに断れない、いじめも断るに断れないという状況。家の人に相談できない、なぜかという母親が暴走してしまうというような側面。もっと言えば、こんなことを家の人や学校の先生に相談したって、私・僕が悪いのだからと言って、自分が悪者というように捉えている状況。いろいろな状況が考えられて、

すべてのことをひっくるめていくと、かなり大々的なことになるのだろうと思う。大人の方から子供に寄り添っていかなければいけないということをうんと強く感じている。このくらいどうってことない、というようなことが通用しないのではと感じている。逆に皆様それぞれの立場から、今こんな風に感じているということを教えていただき、我々大人ができることは何だろうと模索の状況にある。ともにやっていきたいと思う。

(委 員)

残念ながら長野県は、子どもの自殺の率が高い数字になっている。センターの相談件数の推移をみると、令和5年は完全に機能していない。電話を通じて相談したり、面と向かって相談したり、ネットで相談したりというのができない子どもたちの時代になっているということで、SNSは危険なものだということは当然啓蒙するべきだが、このSNSを使った相談といったようなことを、子ども達から受ける仕組みのようなものを使って、1人でも自殺してしまうようなそこまで悩む子どもたちを救う手段を人と金をかけてできないのかと思う。是非検討していただきたいと思う。

(事務局)

長野市内では令和4年度に、子どもに関わるあらゆる相談をワンストップで対応するという事で、相談の内容により関係機関につなぎ連携・支援・調整役を行う機関として「こども総合支援センター あのと」という総合支援センターが設置された。設置する際に、我々少年育成センター含む関連する所属がそれぞれ集まって検討し、このような形で令和4年度に組織ができたため、少なからず少年育成センターの方に来ていた相談自体も「あのと」の方へいっていると思う。窓口がたくさんあることはいいと思うので、引き続き少年育成センターとして相談を受けていくが、長野市はそういった組織体制になっている。

(4) その他

(事務局)

本審議会は、長野市青少年保護育成条例に基づき、有害図書類の指定・勧告並びに有害広告物の掲出制限を命令するときに意見を聴く場として設置されている。近年そういった事象は発生していないが、開催する場合は、改めて通知させていただく。